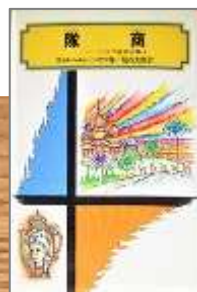


みどりの翼

特集 いろいろアジア

日本を含めてアジアは広い。
知らないアジアを知ってみよう。

2021年1月 Vol. 73



発行：田原市中央図書館
(TEL：0531-23-4946)

カラフルな民族衣装が多いのはなぜだろう

「世界の衣装」

770、芳賀ライオン／写真 ハイパージョル 2011年 383.1/7 ライオン



民族衣装を着た世界中の人々の写真が載っています。いきいきした表情を見ていると、民族衣装は“誇り”なのだろうなと感じます。さらに詳しく知りたい時は『わくわく発見！世界の民族衣装』で調べてみて。



竹永絵里／画 河出書房新社 2017年 383/7 児童



人間が人間として人間に向き合った無償の行為

「エルトゥール号の遭難」

泉美千子／文 磯良一／絵 小学館クリエイティブ 2013年 916/1 児童

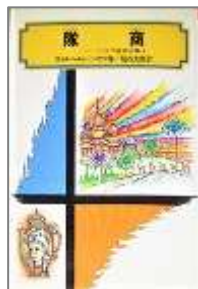


今から120年余り前、オスマン帝国(現在のトルコ)の軍艦エルトゥール号が日本の天皇に勲章と贈り物を届けるという重大任務のため、はるばる日本へやってきました。航海中に何度も修理を施し、満身創痍だったエルトゥール号。任務を果たし、母国に戻るため出航しますが、悪天候に見舞われ、紀伊半島沖の島で遭難、沈没してしまいます。島の村人は目の前の命のために懸命に救助活動を行い…。

※読んでると5分に1回くらいハラハラします

「隊商」

ウィルヘルム＝ハウフ／作 偕成社 1977年 943/1 児童



さばくを進む大きな隊商の前にあらわれた謎の男。隊商の持ち主である5人の商人は彼を旅の仲間を受け入れる。男の提案で、ひとりひとつ面白い話を語って道中の退屈しのぎをすることに。大きな物語の中で小さな物語が紡がれる、いわゆる“枠物語”。小さな物語はどれもエキゾチックな魅力にあふれ、波乱に満ちたストーリーにドキドキ・ゾクゾク。枠となる物語も最後に思わぬ展開を迎えます……。

最愛タイ料理は、カオマンガイ♡

「今日から作れるおウチでタイごはん」

ケームティー・ニン／著 学研プラス 2016年 596.22/円 一般



夏が近づくと、なぜだかタイ料理が食べたくなります。いつもなら、旅行に行ったついでにその土地のタイ料理屋さんに行って堪能するんですが、今年は結局食べられず…。フラストレーションがたまりナンプラーを買ってしまったので、タイ料理に挑戦してみようかと思います。パクチーとナンプラー、塩鮭を混ぜるだけの簡単レシピもあるので一安心。

私はギリシア人のディミトリスが好きです。

「村田エフエンディ滞土録」

梨木香歩／著 角川書店 2007年 913.6/円 ライト



エルトゥールル号沈没事件の日本人の決死の救助活動に感激したオスマン皇帝が、両国の交友をさらに深めようと日本から歴史文化研究員を招くことに。その役に選ばれた村田はトルコに渡り、英国婦人が営む下宿屋でドイツ、ギリシアから来た学者たちとの共同生活を始める。

革命や大戦の影を感じながらも交友と学びを深める彼らの青春は爽やかで、ときにおかしく、真摯に心に残る。

苦難を超えて日本に来た味。

「故郷の味は海をこえて」

安田菜津紀／著・写真 ポプラ社 2019年 334/円 児童



シリア、ミャンマー、バングラデシュなどの故郷を追われた人たちが暮らしている所へ安田さんは赴きます。そして振舞ってくれた料理を共に食べ、故郷での迫害や日本で難民認定されるまでの困難さを語る彼らの話に耳を傾けます。

ネパールから逃れ、豊川市でカレー店を営んでいるケーシーさんが作った定食「ダルバート」はとてもおいしそうですよ。ウェブサイト「論座」連載の書籍化です。

中央図書館では、その他のオススメ本も展示しているので見に来てね☆

☆新着図書・この本読んで！☆

心の傷は人それぞれ

「ひきこもりの弟だった」

葦舟ナツ／著 KADOKAWA 2017年 913.6/ア ジェーンズ



雪の日に突然出会った見知らぬ女性、千草からの「3つの質問」で夫婦になることに決めた啓太。お互いのことを何も知らないまま夫婦生活を始めるが、啓太の過去と千草の過去がやがて二人を結びつけた「最後の質問」につながっていく…。

千草との日々が、ひきこもりの兄と、その兄を溺愛する母との消し去りたい記憶に変化をもたらしていく。

疲れたときには、たっぷり休もう

「保健室経由、かねやま本館」

松素めぐり／著 講談社 2020年 913/ア ジェーンズ



仲が良いと思っていた友達に突然仲間外れにされてしまった佐藤まえみ。居づらくなった教室から逃げ出し、避難した第二保健室でまえみはふしぎな穴を見つける。穴の先にあったのは、中学生限定の湯治場「かねやま本館」。日替わり温泉に浸かり、自分と同じような痛みをもつ人々と触れ合ううちに、まえみは自分と向き合っていく。出てくるご飯がおいしそうで、大人にもこんな湯治場がほしい！！

“あの曲”の原作小説

「夜に駆ける YOASOBI 小説集」

星野舞夜ほか／著 双葉社 2020年 913.68/31 ジェーンズ



「小説を音楽にするユニット」というコンセプトのYOASOBI（読み：よあそび）を知っている方も多いでしょうか。彼らの代表曲『夜に駆ける』はSNSで話題となり“歌ってみた”などの分野でも広く知られています。原作の小説を読むと、楽曲への理解が深まりそうですね。『あの夢をなぞって』『たぶん』などの原作小説も収録されています。

予告：次号の特集は「New!」です。お楽しみに♪